

対象論文「韓国の集合住宅における住棟共用空間の形態と利用実態に関する考察」

発表者 YOO HYE-SON

講評者 1 . 岡田峻

#### どのような研究か

本研究は、都市の集合住宅の多くが経済的合理性を追求してつくられるために、共用空間の質があまり考えられていないことや、高層化など集団的な生活を意識した計画ではないために居住者の生活が閉鎖的ならざるを得ないという問題意識から、韓国の集合住宅における住棟内の共用空間の形態と居住者の利用実態を明らかにすることで、今後の好ましい共用空間のあり方を考察したものである。

#### 何が得られたか

集合住宅の共用空間を「CORE型」「階段室型」「各階通路型」に分類してヒアリング結果を分析した結果、以下の点が明らかになった。

- ・共用空間の形態によってその利用状態が違った
- ・どの形態においても通路での近所同士のコミュニケーションが6割以上と高い割合でみられた
- ・住宅公社アパートの場合、生活用品が共用空間にあふれ出し、ほとんどが物置として使われている
- ・共用空間の形態によって満足度に違いがみられた

しかし満足度に関しては、対象に選んだ集合住宅の居住者の経済状況にかなり違いがあると推測されるため、形態による満足度の差異がアンケート結果に表れていないと考えられる。

対象の選定の段階で、集合住宅の規模を基準に選んでおけば比較できただろう。

#### どのような意義があるか

ライフスタイルの多様化や少子高齢化などの社会の動きの中で、都市の中で集まって住む形が再び問われている。そのような中で集合住宅の共用空間の使われ方の実態を明らかにすることは、現在の集合住宅が抱える問題を明らかにし、改善していく上で重要なことであり、この研究ではその基礎的な知見が得られていた。

以上の理由により本研究は生活環境計画の分野において意義がある。

#### 感想

階段室型でひとつのエレベーターを2戸で共有するという日本では珍しい共用空間があることが分かっておもしろかった。また韓国の集合住宅のプランは、日本の典型的な集合住宅プランと違って、横に長い（つまり奥行きがなくバルコニーに接している部分が多い）ことを、見ていて思った。日本との比較もあればおもしろかったかもしれない。

あと、この研究の発展としては、高層マンションに住む人の生活のどの部分が住居の中に納まり、どの部分が都市に染み出しているのか、低層集合住宅との比較研究があるだろう。(評者/岡田峻)